

「生きる力」を育む「確かな学力」の向上への取り組み
～ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善を通して ～



今年度3回目の訪問となる。二学期には「学びの共同体」のスーパーバイザー（SV）である麻布教育研究所の永島孝嗣先生を招いて公開授業と授業研究会が開催された。左右の2枚の写真は本日の公開授業後の研究協議会におけるグループ協議の様子である。教師



達の対話からもこの1年の教師達の挑戦の足跡を伺うことができる。私が提案した協議題は下記の3つ。

- Q1：主体的学びが成立している状況とは？
- Q2：対話的学びが成立している状況とは？
- Q3：深い学びが成立している状況とは？

ご存知の通り、新学習指導要領で示された授業改善の新たな視点である。授業者も一緒に協議に参加し、本時の提案授業と日常の授業から議論が深まる。現在各学校で次年度に向けてカリキュラムマネジメントが検討されているが、どれほ

どの管理職（校長、教頭）や教諭たちが視点を踏まえた議論ができるだろうか？…座間味小中の教師達の議論の質はかなり安心できるレベルである。みんなで向かう方向は間違っていないと断言できる。

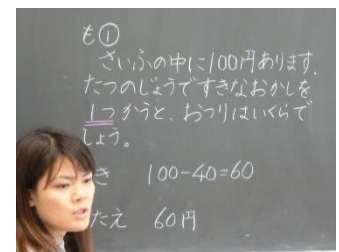
文科省から提言された『主体性・多様性・協働性、学びに向かう力』の育成に向けて、大切にされなければならない学校の在り方がある。校長のビジョンの共有、授業理論の共通理解、授業イメージ（授業像）の共有、さらに、授業づくりや、研究協議を重ねるたびに積み上げられていく「同僚性の構築」が鍵となると考える。

[1年 算数] おおきいかす：『10がいくつ』と考えて10の位の計算ができる。

この時期に1年生の教室を公開した授業者に敬意と感謝の意を表する。1学期から積み上げてきた「主体的・対話的深い学び」の具現化に向けた授業への挑戦である。子どもの声に心を向けて聴き、子どもの表情から私の言葉をつなげていく。



「主体的学び」の成立のためには子ども達に課題を預けなければならない。「対話的学び」の成立のためにはペアや仲間にあずけなければならない。「深める」ために子どもの問いを仲間つなげなければならない…大丈夫だろうか？授業者の不安と疑念は授業進行中も常に脳裏に見え隠れする。



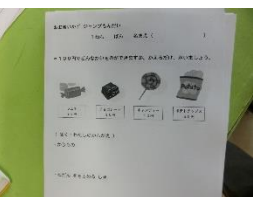
「きく・つなぐ・もどす。」ってこんな感じですか？…授業者は参観者に提案する。…参観者は教室の事実から学びを獲得していく。授業者に感謝である。



何の違和感もなく躊躇なく訊き合う1年生。「なんで？」「どうして？」この言葉が主体的探求の始まりである。主体的な「問い」は沖縄県の目指す授業像のキーワードでもある。この教室で自然

にその言葉が発せられるということは、日常的に授業者が子どもの声を受け入れているからである。

[ジャンプ問題] 授業者は、さらなる学びの深まりを追究し「ジャンプ問題」を子ども達に提供する。問題文を読みながらも子ども達はブツブツ、ボソボソとつぶやきながら仲間や教師の顔を伺う。



独り言、念仏を唱えるように淡々とつぶやいている。ぜひ、ビデオで確認してほしい。配布直後に「分からなかったらお友だちにきいてね。」「お友達と一緒に考えてね」の言葉は重要である。教師のこの言葉が、一人で考える孤立を防ぎ、仲間依存することで「協働と対話」が成立するのである。



すべての行為や言葉には目的や意義がある。さて、ジャンプ問題の目的と意義はなんですか。何のために子ども達に難しい問題を提供しているのですか？PISAは課題解決能力の定義を「解決が困難な課題や問題を、解決しようとする意向と力である。」と定義した。この言葉を踏まえ座間味小中の



校内研でぜひ議論を深めてほしい。…教師も探究心を持ちましょう。

S・T先生、1年生のニコニコしながら「わからない」を言っている姿はとても素敵なことです。教師が受け入れてくれるから言えるのですね。もう一度ビデオでブツブツを確認してみてください。（志）

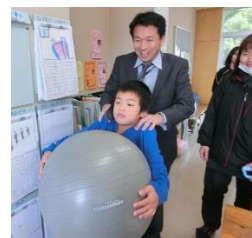
[2年] 絶妙な距離感・・・近すぎてもダメ、遠すぎてもダメ！



授業者と子ども達の距離（空間）は難しい！
教師が近すぎたり、何でもかんでも聴いていたら仲間同士で解決に向かう協働と対話が成立しなくなり、教師依存の「先生～！先生」の声の大きさを張り合ってしまう状況になる。また、あまりにも物理的な距離や、心的な距離を置きすぎると特に低学年の子ども達は不安や戸惑いが生じ困惑する。



そんな中この教師は、絶妙な距離感で子ども達と接していた。「近すぎず、遠すぎず。お友達とつなく。」この行為が授業中何度も確認できた。ぜひ校内で再度ビデオを視聴し確認していただきたい。右の写真、男の子への対応が素敵である。担任、支援員、すべての職員がまず彼を受け入れることからである。校長先生の笑顔の対応が模範になる



この後、男の子は支援員と一緒に教室に戻って来て、みんなと一緒にワークシートに向かっていった。しかも夢中になって仲間と対話し学びを獲得していた。

[中学校 3年 数学] 入試問題をやる：「規則性の問題」を解き、相手に分かりやすく説明する。



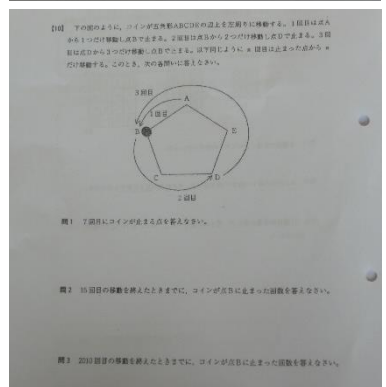
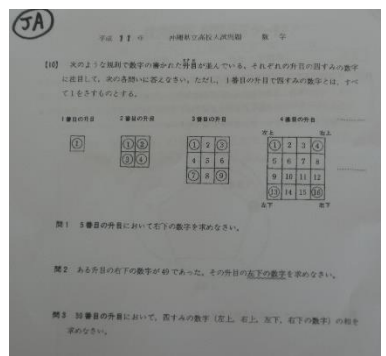
入試前の3年の授業である。まず普通の校内研で拝見することのできない研究授業である。

入試の過去問を2問準備し、生徒に問題を選択させ、グループで解決に向かうジグソーグループでの問題解決になる。

私は常々、「授業改善は日常でやる。研究授業は日常をやる。」ということをお口にします。私が訪問した時だけの見せるためだけの授業であってはならない。

ここは、南の島の過疎地域である、当然進学塾などない、学校がその役割を担わなければならない。本日の授業者は、3年生の入試勉強を公開授業のネタに準備した。右の写真がチョイスされた問題である。

幼稚園の頃から10年余、お互いの強みや弱みも知り尽くしている仲間である。下の3枚の写真、何の違和感や躊躇もなく互いに訊き合い支え合う。小さい頃からこの小さな島で生き抜くために身につけてきた「ぼくなり生き方がある。」それは、・・・困っている人は助ける。

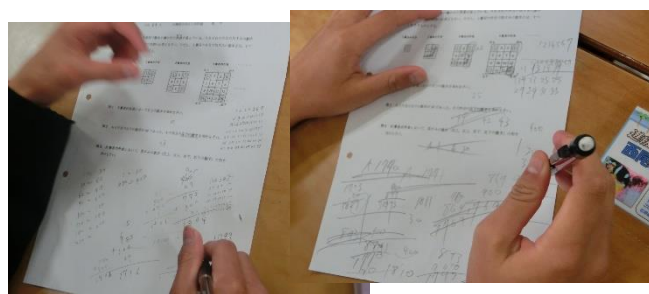


[関係をつくる]男子に教えを求められ素直に応じて説明している女子。不思議なことに教師が説明しても理解してくれないのに、なぜ仲間の説明では納得するのだろうか？簡単である。女の子は「彼が分かる言葉で」しか話さないからである。（教師ができない）

下右写真、女の子のこの行為はなんですか？男子を気にかけ、「ちゃんとできているかな？」女の子の心の声が聞こえますか。



[アクティブとは]能動的に働かせるのは身体ではなく思考力である。つまり、脳をアクティブ化することである。2枚の写真、生徒達がどれほど解決に向かい脳に汗をかいたかがわかる。彼らの脳の中では解決に至るプロセスでの学びは確実に起こっている。個々によって差はあるが、多様な学びが確実に成立した。



①すべての教師が年に1回以上は授業を公開する。 ②教師の「教え方」でなく「子どもの学び」を省察し語り合う。 ③評価や助言ではなく教室の事実から学んだことを語り合う。 ④すべての教師が発言する。
座間味小中の皆さん素敵な授業ありがとうございました。中学3年生はいよいよ「島立」ですね、数年後に彼らが再会するとき、今の素朴で素敵な関係が維持できていることを心から願います。 国頭学びの会ゆい